

● 学会発表の内容

体外受精実施者へのインフォームドコンセント用資料作成 ～最終的な体外受精の成功率（出生率）はどれくらいか？～

医療法人社団 徐クリニックARTセンター
伊藤真理 清須知栄子 峰千尋 中塚愛 徐東舜

■ 【目的】

体外受精を実施する際に、インフォームドコンセントの資料として体外受精成績（出生率）を患者に伝える必要がある。そこで体外受精成績の説明資料として、当院での採卵回数ごとの出生率とその累積を調べ、グラフを作成したので報告する。

■ 【対象】

2010～2013年の体外受精初回実施者775症例のうち、タイミング及びAIHにて出生した20症例を除いた755症例を対象とした。

■ 【方法】

対象の採卵で得られた移植胚全てを用いて出生の有無を調べ、その採卵ごとの出生率及び累積出生率について採卵4回目までを検討した。また、ドロップアウト（治療中断）した症例を全て出生に至らなかったとみなした非楽観的予測、ドロップアウトした症例がその回数ごとの出生率と同程度で出生に至ったとみなした楽観的予測の2つを比較検討した。

■ 【結果】

採卵回数ごとの出生率は、1回目：40.1%（303/755）、2回目：22.8%（89/390）、3回目：15.3%（37/242）、4回目：10.3%（18/174）であり、採卵回数ごとに低下傾向であった。各回数でのドロップアウト率は1回目：13.7%、2回目：19.6%、3回目：15.1%、4回目：20.5%であり、出生率とは逆に採卵回数ごとに増加傾向であった。累積出生率の楽観的予測及び非楽観的予測は、1回目：40.1 vs 40.1%、2回目：53.8 vs 51.9%、3回目：59.9 vs 56.8%、4回目：62.7 vs 59.2%であった。

■ 【結語】

患者が実際に治療するにあたり、どの程度成功（出生）するかを示すための良い資料であると考え。また、楽観的予測と非楽観的予測では両者に大きな差は見られないことから、簡易的非楽観的予測をインフォームドコンセントに用いるのが良いと考える。